

科捜研試験（心理職）の受験勉強

北海道警察本部刑事部科学捜査研究所

山本 渉太（やまもと しょうた）

Profile — 山本 渉太

2008年、北海道教育大学教育学部旭川校卒業。2010年、北海道大学大学院文学研究科修士課程修了。2010年4月より現職。専門は犯罪心理学、認知心理学。

科捜研の採用試験

近頃刑事ドラマに頻繁に登場する科捜研は、採用試験についての情報がきわめて少なく、インターネットなどでは真実ではない情報も出回っています。しかしながら、科捜研職員になるための方法はいたってシンプルで、他の公務員になるのと基本的に同じ、つまり、地方公務員採用試験を受験し、合格すればよいのです。

ただ、科捜研の採用試験は毎年定期的に行われているわけではなく、実施される時期もバラバラであるとともに、国家公務員のように大々的に採用試験が広報されることもありません。科捜研への就職をめざすならば、まずは採用試験があることを見逃さないように、定期的に各都道府県警察のホームページを確認するなどの対策を講じる必要があります。

採用試験対策全般

私が科捜研の採用試験対策を本格的にはじめたのは修士課程1年の11月頃で、最初に募集があった北海道警察科捜研の採用1次試験が翌年5月下旬だったので、おおよそ7ヵ月間を筆記試験の対策に費やしたことになります。

私は予備校には通っておらず、民間企業への就職活動も行っていたため、1日の勉強時間は一定ではありませんでしたが、ほぼ毎日机には向かっていました。そして、試験直前の2ヵ月間は、毎日午前8時前に大学へ行き、図書館

などにこもって勉強し、終電で帰るといった生活を送っていました。ちなみに対策に費やした時間を全部で10とするならば、一般教養試験対策に4、専門試験対策に3、面接試験対策に3の力を配分しました。

専門試験対策

専門試験対策として、私は市販の参考書を4冊、心理学辞典を1冊用いました。この5冊以外は使用していません。同じ教材を何度も何度も繰り返し、内容を頭にたたき込みました。

私は大学院で専攻していた認知心理学などを重点的に勉強し、あまり関心がなかった領域は目を通す程度に留めました。私はこの方法で運良く合格することができましたが、あまりお勧めしません。私は北海道警察科捜研以外に他の警察心理職も一つ受験しましたが、どちらの専門試験も「広く浅く」出題されていました。さらに、各都道府県警察の科捜研で出題傾向が異なることも考えられるため、満遍なくできるだけ多くの領域を勉強するほうがベターだと思います。

また、私は上記以外に、犯罪心理学、とくにポリグラフ検査やプロファイリングについても、いくつかの書籍や論文を読んで勉強しました。結果的には、これらの勉強が専門試験に直接的に役立つことはありませんでした。しかしながら、採用試験を受験するうえでは、たいへん有意義であったと感

じています。どんな仕事でも実際の業務は働いてみるまでわかりませんが、イメージを掴み、なぜその業務に魅力を感じるのか、自分のこういった特長がその業務に活かせるのかを考えることは、非常に重要なことだと思います。各都道府県警察によっては犯罪心理学について出題されるかもしれませんが、また、専門試験で出題されるか否かにかかわらず、面接試験を受ける際に欠かすことができない部分ですので、多少は勉強しておく必要があると思います。

科捜研をめざされる皆さんへ

なかなか先の見えてこない就職活動はたいへんつらいものです。昨今の不景気もあり、また、科捜研の採用試験は合格者が一人であることが多いため、倍率が数十倍になることも珍しくなく、試験が近づくにつれて不安は一層高まります。私も何度も挫けそうになりました。

そんなときに自分を支えてくれるのは、強い意志です。「なぜ心理職に就きたいのか」「なぜ法務省や家庭裁判所や児童相談所ではなく、警察なのか」「なぜ警察官や他の警察心理職（被害者支援など）ではなく、科捜研なのか」をよく吟味してみましょう。突き詰めて志望動機を考えていくことが、強い意志を生み出し、筆記試験と同等以上に重要になる面接試験にも生きてきます。

私はどうしても科捜研で働きたいので、採用試験を受験しました。就職してちょうど1年経ちましたが、私の期待以上に科捜研は魅力的な職場です。

これから科捜研をめざされる方が「同僚」になれる日を、心より楽しみにしております。

社会福祉士の受験勉強

桑名市公立保育所 保育士

内山 綾 (うちやま あや)

Profile — 内山 綾

2005年、愛知淑徳大学コミュニケーション学部コミュニケーション心理学科卒業。2006年、日本福祉大学中央福祉専門学校卒業。同年より現職。



はじめに

私は現在、保育士として公立保育所に勤務しています。ここに至るまで、大学卒業後に1年間、専門学校に通い、国家試験受験ののち、保育士および社会福祉士の資格を取得しました。

資格取得の経過

愛知淑徳大学コミュニケーション学部コミュニケーション心理学科に在学中、発達心理学を専攻するとともに、ボランティア活動を通して子どもたちと触れ合う経験をしてきました。そのような経験を積み重ね、以前より興味があった保育士資格取得試験を受験すべく、通信教材や過去問題を使用して勉強した結果、「発達心理学及び精神保健」「小児保健」「小児栄養」「保育原理」「教育原理及び養護原理」「保育実習理論」の6科目に合格できたものの、「社会福祉」と「児童福祉」の2科目を残してしまいました。また、同時期、ボランティア活動でお世話になっている方が社会福祉士を取得していることを知り、社会福祉士の専門性の高さや必要性を聞く機会がありました。こうした経緯をへて、より深く福祉の知識を得る必要があると思い、大学卒業後に日本福祉大学中央福祉専門学校社会福祉士夜間課程に進学しました。そして、昼間は保育所でアルバイトをし、夜間は講義を受けるという生活の中、夏には保育士を、冬には社会福祉士の資格試験を受験し、各々の取得に至りました。

専門学校で学んだこと

2006年度の受験当時、社会福祉士の国家試験では、共通科目として「社会福祉原論」「社会保障論」「公的扶助論」「地域福祉論」「心理学」「社会学」「法学」「医療一般」の8科目、専門科目として「老人福祉論」「障害者福祉論」「児童福祉論」「社会福祉援助技術」「介護概論」の5科目の、計13科目の知識が必要とされていました。専門学校では、月曜日から金曜日に各90分2時限の講義(18:00～21:10)を受けるとともに、6月から10月の間に連続4週間の現場実習を行い、資格取得に必要な知識を基礎から応用まで体系的に学びました。また、専門学校の仲間は同年代の人だけでなく、すでに福祉の現場で働いている人やまったく違う職種から来て福祉を学ぼうとする人など、国家試験合格という共通の目的をもったさまざまな人の集まりでした。そのため、試験が近づく頃には、自主学習グループをつくり、各々の得意分野を活かしながら、過去問から出題傾向を読み解くなど、教えあい、励ましあい、学んでいきました。

社会福祉士の取得において心理学が役立ったこと

大学で学んだ心理学の知識は、「心理学」の内容ではもちろんのこと、「社会福祉援助技術」「社会学」「医学」「地域福祉論」「社会福祉援助技術」などの科目においても重なる部分があり、学習を進

めていくうえで力になりました。試験問題が基本的な知識を要求される選択式ということもあり、大学で興味をもって学んでいた発達心理学の問題は、すぐに得意分野になりました。また、専門学校の講義を受けていても、大学で学んださまざまな分野の心理学の基礎知識が思い起こされ、知識の学び直しとして、頭の中に入れていくのがわかりました。

また、援助技術や実習においては、人に対するときの心構えなどを学ぶ機会があったのですが、こういった場面でも、根底として心理学の考え方(傾聴など)が取り入れられており、とまどいなく受け入れ、実践していくことができましたと思います。

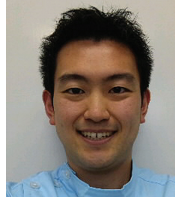
現在の仕事で資格がどのように活かされているか

保育士として働くなかで、保護者支援、地域における子育て支援などがますます重要になってきていると感じます。さらには、保育士の役割として、社会福祉士の専門にもある集団援助技術や地域援助技術を学び、実践していくことが求められているように思います。しかし、私自身、現場で子どもと接しているうちに、目の前のことしか見えなくなってしまうことがあります。そのようなときは、大学で学んだ心理学や、専門学校で社会福祉士をめざして学んだことを思い返し、より広い視野をもって現場を見つめるよう心掛けています。

これから先も、社会福祉士としての知識や思いは、大学で学んだ心理学とともに、常に、私の考え方の基盤となっていくのだと思います。

言語聴覚士の受験勉強

国立障害者リハビリテーションセンター病院
言語聴覚士
矢作 満 (やさく みつる)



Profile — 矢作 満

2005年、明星大学人文学部心理教育学科卒業。2007年、日本福祉教育専門学校言語聴覚療法学科卒業。私立病院勤務を経て、現職。

言語聴覚士 (ST) とは

STとは、失語症、高次脳機能障害、嚥下障害、構音障害、発達障害、聴覚障害、吃音など、主にコミュニケーション障害を持つ方々にリハビリテーションを行う専門職です。高次脳機能（言語・記憶・注意など）の障害や発達障害のリハビリテーションを行いますので、その基礎となる心理学の知識も必要とされます。

ST になるためには

STになるためには特定の大学や専門学校を卒業（見込）し、国家資格に合格する必要があります。STの場合、大学や3年制の専門学校だけでなく、大卒資格を持っていれば2年制の専門学校などでも受験資格を得ることが可能です。私は大学で心理学を専門に勉強していました。当時、学習心理学の講義をしてくださった先生がSTで、その授業の内容に興味を惹かれました。また、心理学を活かした職に就きたいと思っていたこともあり、大学卒業後、2年制の専門学校に入学しました。

ST 養成校での勉強

STの養成課程には臨床実習が含まれています。臨床実習に出る前に全ての科目を履修しなくてはなりません。私の母校では2年次の1学期までに、臨床実習を除く全ての単位（61単位）を履修しました。具体的には、平日ほぼ毎日1限から5限まで授業がありました。また、1単位でも落としたり

まうと再履修をする時間がないうえに留年となってしまいます。ですから試験も大学生のときに比べかなり緊張感のあるものでした。

さらに、座学だけでなく演習形式の授業もありました。演習では先生のリハビリ場面を見学し、その患者さんの状態の評価などを行います。いちばん臨床現場に近い授業ですがそのぶん非常に難しく、指導される先生も常に真剣でした。

心理学分野の授業は主に座学でした。しかし知能検査や記憶検査など心理検査の演習も行われました。これら心理検査は患者さんの状態を把握する方法の一つとして非常に重要なものです。各検査法は心理学の理論に基づいて構成されていますので、その知識があると検査結果の解釈・分析の際に非常に有用であると感じています。

授業の内容と国家試験

養成校の授業では「心理学」領域も学びますが、それ以外に「臨床医学」や「言語学」、「失語・高次脳機能障害学」など大きく分けて16の分野を学びます。また「心理学」という分野には、臨床心理学、生涯発達心理学、学習・認知心理学（心理測定法を含む）が含まれています。「心理学」という名前はついていないものの、精神医学や言語発達学といった心理学の周辺領域も学びます。このように各論の知識が必要です。

STの国家試験は合計200問から成ります。このうち6割であ

る120問以上正解すれば合格できます。心理学関連の問題は例年約20問程度出題され、この出題数は決して少なくないと思います。心理学の分野では、一般に聞き慣れない人名や理論、検査名が多く登場します。これらを大学で学んでいたことは、国家試験対策に非常に有利だったと思います。

私の試験対策

前述のとおり、養成校では16の分野を学びます。16の分野はさらに各論に分かれています。そのため学習量は多くなり、丸暗記は困難でした。この対策として、私は他の科目に関連づけていくという方法をとりました。この方法は理解も深まり、覚えやすくなると思います。たとえば「パーキンソン病」という病気は神経内科学で学びますが、その言語症状は構音障害学で学びます。また「ピアジェの発達論」は、発達心理学、言語発達学、言語発達障害学に関係します。このように自分の頭の中で関連づけていくと、「Aという病気」と言われたら、「主な原因」「罹患率や罹患しやすい年齢」「言語症状の特徴」「言語訓練の主な方法」などといった関連内容を連想しやすくなります。ここまで理解すれば非常に問題が解きやすくなります。

おわりに

ST国家試験の合格率は毎年およそ50～60パーセントの間です。しかし前述の通り、6割正解すれば合格です。合格者の定数が決まっている試験ではありませんので、やるべきことを行っていれば必ず合格できます（私の母校は毎年100パーセントに近い合格率です）。STという仕事は非常にやりがいのある仕事です。ぜひ、チャレンジしてみてください。